


# MITSUBISHI

三菱電機  空調管理システム


三菱電機スリムエアコン用共通

## MAリモコン

## PAR-20MA

販売店・工事店さま用

据付工事説明書

この説明書は三菱電機  空調管理システム、直膨式マルチエアコン室内ユニット(Cタイプ以降)用と三菱電機スリムパッケージエアコン用共通のMAリモコンの据付工事についてのみ記載しております。よくお読みのうえ、正しく据付けてください。なお空調機本体への配線、および空調機本体の据付工事に関しては、空調機本体の据付説明書をご覧ください。

### 1 安全のために必ず守ること

- 据付工事はこの「安全のために必ず守ること」をお読みのうえ、确实に行なって下さい。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分説明しています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠ 注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋、家財などの損害に結びつくもの

- お読みになったあとは、室内ユニットに添付された取扱説明書などとともに、お使いになる方に必ず本書をお渡し下さい。
- お使いになる方は、取扱説明書などとともに、いつでも見られる所に保管し、移設・修理の時は工事される方に、又お使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方にお渡し下さい。

#### ⚠ 警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。  
お客様自身で据付工事をされ不備があると、感電、火災等の原因になります。

据付けは、十分に耐える所に確實に行う。  
強度が不足している場合は、本機の落下により、ケガの原因になります。

配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全の場合は、発熱、火災等の原因になります。

改造、修理は絶対しない。  
改造したり、修理に不備があると感電、火災等の原因になります。  
修理はお買上げの販売店にご相談ください。

据付工事は、この据付工事説明書に従い确实に行なう。  
据付けに不備があると、感電、火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電機移設に関する技術基準」、「内線規定」、及び本説明書に従い施工する。  
電気回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

お客様自身で移設はしない。  
据付工事に不備があると感電、火災等の原因になります。お買上げの販売店または専門業者にご相談下さい。

#### ⚠ 注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ据付けない。  
万一ガスが漏れて本機の周囲に溜まると発火、爆発の原因になることがあります。

特殊環境には使用しない。  
油（機械油を含む）、蒸気、硫化ガスなどの多い場所で使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損したりする場合があります。

病院、通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズに対する備えを充分に行なう。  
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器等の影響による本機の誤動作や故障の原因になったり、本機側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になることがあります。

配線は張力がかからないように配線工事を行なう。  
断線したり、発熱、火災の原因になります。

リモコンケーブル引き込み口を、パテで確実にシールする。  
露、水、ゴミ、虫等の侵入のため、感電、故障の原因となる場合があります。

本機を据付ける付近の温度が40℃以上、0℃以下になる場所、または直射日光のあたる場所には据付けない。  
変形、故障の原因となる場合があります。

AC100VやAC200Vは絶対に印加しない。リモコンへの印加電圧は最大で12Vです。破壊、発火、火災の原因となります。

浴室など大量の湯気が発生する所には据付けない。  
水のかかる場所、壁が結露するような場所は避けてください。感電、故障の原因になります。

酸性、アルカリ性の溶液、特殊なスプレー等頻繁に使用するところへは据付けない。  
感電、故障の原因になります。

配線は電流容量にあった規格品の電線を使用すること。  
漏電や発熱、火災の原因になることがあります。

濡れた手でボタンを操作しない。  
感電、故障の原因となる場合があります。

本機を水洗いしない。  
感電、故障の原因になることがあります。

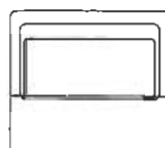
ボタンを先のとがった物で押さない。  
火災、感電の原因となります。

### 2 部品確認

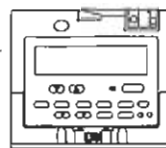
箱の中には、この説明書の他に次の部品が入っていますのでご確認ください。

1. リモコン（カバー、本体）……………1
2. 十字穴付きナベネジ M4×30 ……………2
3. ホネジ M4.1×16（壁に直接据付ける時使用）……………2

※リモコンケーブルは別売です。現場で調達するか PAC-YT81HC(10m)、PAC-YT82HC(20m) をお求めください。



リモコンカバー



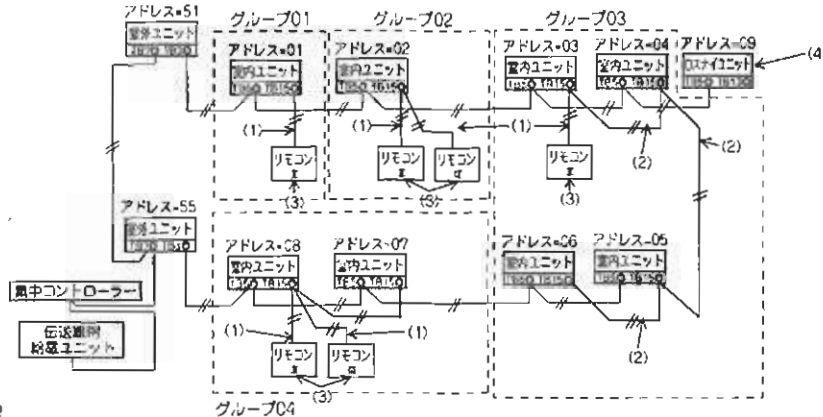
リモコン本体

### 3 伝送線配線

リモコンの配線は、フリープランシステム（Cタイプ以降）に接続する場合とスリムパッケージエアコン（スリムA制御タイプ）に接続する場合は異なり、さらにシステム構成によって、異なりますので、ご確認ください。

#### 1. フリープランシステムとの接続の場合

図中(1)～(4)は以下の説明文(1)～(4)と対応していますのでご確認ください。



MAリモコンは  
室内ユニット  
TB15へ接続  
してください

- (1) リモコンからの配線
  - ・室内ユニットのMAリモコン線用端子台（TB15）へ接続します。
  - ・端子台に極性はありませぬ。リモコン端子台に示してあります記号のA、Bに接続します。
- (2) グループ運転する場合（上記グループ02.03.および04）
  - ・グループ運転する室内ユニットのMAリモコン線用端子台（TB15）同士を渡り配線し、そこにリモコンを接続します。
  - ・上図のようにMELANSシステムコントローラと併用する場合、システムコントローラ（上図では集中コントローラ）側でグループ設定が必要です。
- (3) 接続可能リモコン台数（グループ02.およびグループ04）
  - ・各室内ユニットで構成する1つのグループには、主リモコンと従リモコンの2台まで接続できます。
- (4) ロスナイを連動させる場合は、リモコンで次の設定をしてください。（この場合、設定方法につきましては「7 換気設定」をご覧ください。）
  - ・グループ内全てのアドレスの室内ユニットと連動するロスナイのアドレスを設定します。
- (5) リモコン配線の総延長
  - ・最大200mまで延長可能です。0.3～1.25mm<sup>2</sup>のケーブルを現地ににて誘導するが別売品をお求めください。（別売品につきましては「2 部品確認」をご覧ください。）

△注意 リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子台には配線1本しか接続できません。

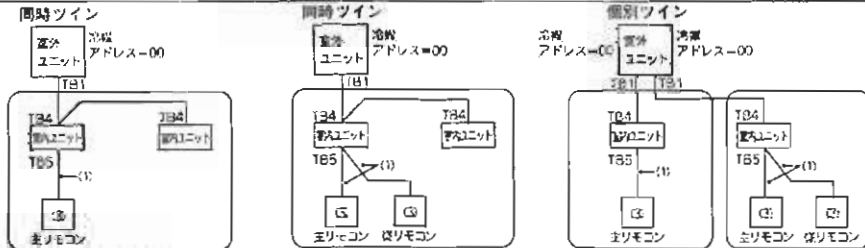
お願い ロスナイと連動設定させる場合、必ずグループ内全ての室内ユニットのアドレスとロスナイユニットのアドレスを連動設定してください。設定をしないとロスナイは運転できません。

#### 2. スリムエアコンとの接続の場合

リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、以下の例に従って行なってください。

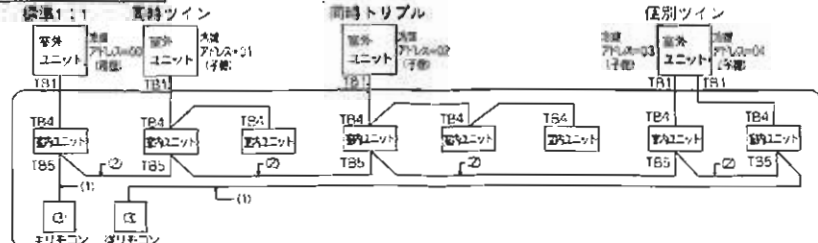
図中の(1)～(3)は以下の説明文(1)～(3)と対応していますのでご確認ください。

##### (1) 冷媒系統ごとにリモコンを接続する場合（標準1:1、同時ツイン、同時トリプル、同時フォー、個別ツイン）



MAリモコンは  
室内ユニット  
TB5へ接続  
してください

##### (2) 異冷媒系統でグルーピングする場合



※冷媒アドレスの設定は室外ユニットのディップスイッチにて行ないます。（詳細は室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください）  
※□で囲まれた全室内ユニットを1グループとして制御します。

- (1) リモコンからの配線
  - ・室内ユニットのTB5（リモコン用端子台）へ接続します。（極性はありませぬ）
  - ・同時マルチタイプにおいて、異なる機種種の室内ユニットが混在する場合、必ず機能（風速、パーン、ルーバーなど）の多い室内ユニットにリモコンを接続してください。
- (2) 異冷媒系統でグルーピングする場合の配線
  - ・リモコン配線によりグルーピングを行ないます。グルーピングする各冷媒系統の任意の室内ユニット1台とリモコン線にて渡り配線してください。
  - ・同一グループ内に異なる機種種の室内ユニットが混在する場合、必ず機能（風速、パーン、ルーバーなど）の多い室内ユニットが接続されている室外ユニットを親機（冷媒アドレス=00）としてください。また親機が同時マルチタイプとなった場合には必ず上記(1)の条件を満たしてください。
  - ・MAリモコンでは最大16冷媒系統を1グループとして制御可能です。

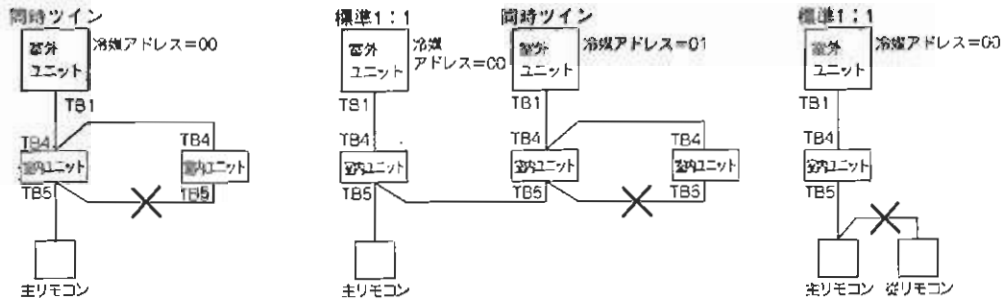
(3) 1グループに2台までリモコンが接続できます。

- ・1グループにリモコンを2台接続した場合、主リモコンと従リモコンの設定を必ず行なってください。
- ・設定方法としては1グループに1台しか接続されていない場合は常に主リモコンとし、1グループに2台のリモコンが接続される場合はそれぞれ主リモコンと従リモコンに設定してください。(主従切換スイッチについては **4** 据付方法) の6. をご覧ください)

(4) リモコン配線の総延長

- ・最大500mまで延長可能です。0.3~1.25mm<sup>2</sup>のケーブルを現地にて調達するか別売品をお求めください。(別売品につきましては **2** 部品確認) をご覧ください。)

**△注意** ・同一冷媒システムの室内ユニットTB5への渡り配線は禁止です。渡り配線した場合、システムが正常に作動しません。  
 ・リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子台には、配線は1本しか接続できません。  
 ・TB5へ接続時、1つの端子台に同じサイズの配線は2本までとしてください。



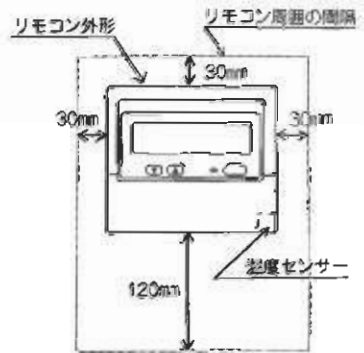
## 4 据付方法

1. リモコン (スイッチボックス) の据付位置を決めてください。

ただし、下記の事項を必ず守ってください。

- (1) 温度センサはリモコンと室内ユニットの両方に付いていますが、リモコンの温度センサを使用する場合、主リモコンに設定したリモコンにて室温を検知します。主リモコンは部屋の平均的な温度を検知できる場所で、直射日光やエアコンの吹出し空気が直接当たらないなど熱源の影響を受けない所に据付けてください。  
 (リモコンの主/従設定は **4** 据付方法) の6. を、温度センサの設定についてはフリーブランドシステム室内ユニットの据付説明書、スリムエアコンは **8** 機能選択) をご覧ください)
- (2) スwitchボックス、壁どちらに据付ける場合でも右図に示すスペースを確保してください。(ただし、スケジュールタイマー併用時についてはスケジュールタイマーの据付説明書を合わせてご覧ください。)

**お願い** リモコンセンサの付近に配線がないことを確認してください。  
 配線などある場合、リモコンにて正確な室温を検知できません。



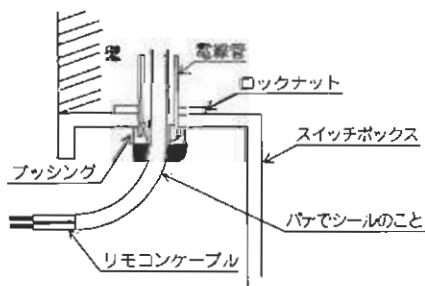
(3) 下記の部品は現地にて調達してください。

- ・2極用スイッチボックス (JIS C8340)
- ・薄鋼電線管 (JIS C8305)
- ・ロックナット、プッシング (JIS C8330)
- ・モール (JIS C8425)

2. 露、水滴、ゴキブリ、虫などの侵入防止のためリモコンケーブル引込口をパテで確実にシールしてください。

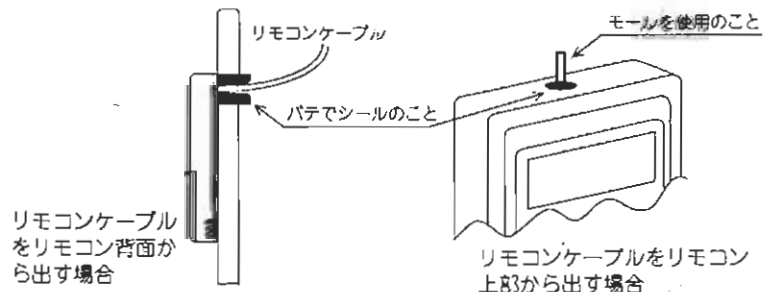
スイッチボックスを使用する場合

- ・スイッチボックスに据付けた場合はスイッチボックスと電線管の結合部をパテでシールしてください。



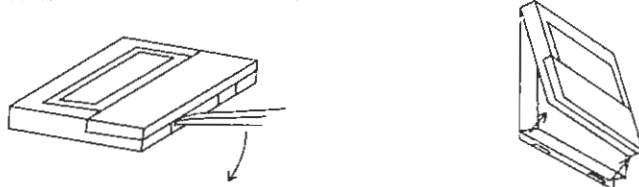
壁に直接据付ける場合

- ・壁に穴を削りリモコンケーブルを通す場合 (リモコンケーブルをリモコン背面から出す場合) その穴をパテでシールしてください。
- ・上カバーの切り取った部分よりリモコンケーブルを逆せ場合は上カバーの切り取った部分を同様にシールしてください。
- ・リモコンケーブルを壁面で引回す場合はモールを使用して下さい。



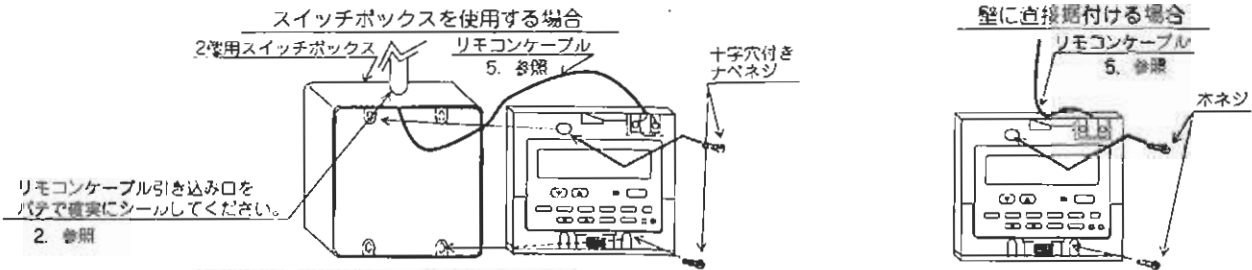
3. リモコン本体のカバーを外します。

- ・マイナスドライバーを爪部にはめ込み矢印で示す方向に動かします。



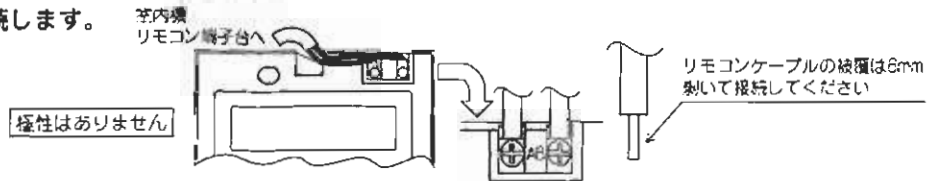
**△注意** ドライバーを爪にはめ込んだ状態で回転させないでください。  
 爪がこわれてしまうことがあります。

#### 4. 下ケースをスイッチボックスまたは壁に据付けます。



- △注意** ネジを締めすぎないでください。下ケースの変形、割れの原因になります。
- お願い** 据付け面は平らな所をお選びください。
- ・スイッチボックスまたは壁への据付けは必ず2ヶ所以上を固定してください。
  - ・再度、壁へ取付けの際は、モリーアンカーなどを使用し、確実に固定してください。

#### 5. リモコンケーブルを本体の端子台に接続します。



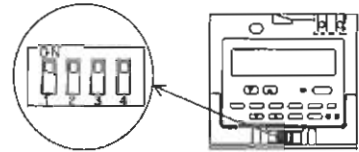
- △注意** リモコンの端子台への接続に圧着端子は使用しないでください。基板と接触し故障の原因やカバーと接触し、カバー破損の原因になります。
- △注意** リモコンケーブルの切端などがリモコン内部に入らないようにしてください。感電、故障の原因となることがあります。

#### 6. リモコンを1グループ内で2台使用する場合、ディップスイッチを設定します。

- リモコンを1グループ内で2台使用する場合は下図のディップスイッチ1番にて主/従を設定してください。
- ・設定方法としては1グループに1台しか接続されていない場合は常に主リモコンとし、1グループに2台のリモコンが接続されている場合は、それぞれ主リモコンと従リモコンに設定してください。
  - ・工場出荷時は「主」に設定してあります。

##### ディップスイッチの設定

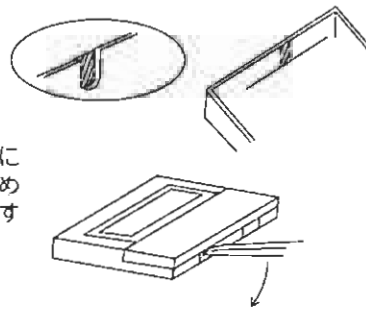
リモコン本体下側にSWがあります。これら进行操作し、リモコン主/従の設定やその他の機能設定を行ないます。通常は主従設定スイッチの1番以外は変更しないでください。(出荷時設定は全て「ON」設定です。)



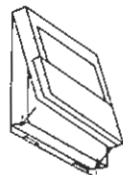
SW番号	SW内容	ON	OFF	備	考
1	リモコン主/従設定	主	従	1グループ2台接続時どちらか一方を「従」設定にします	
2	リモコン電源投入時	通常立ち上げ	タイマーモード立ち上げ	スケジュールタイマー接続時の各種定時タイマーモードで運転させたい場合「タイマーモード立ち上げ」設定にします。	
3	自動設定時冷房/暖房表示	あり	なし	自動モード設定時、「冷房」「暖房」表示をさせたくない場合「なし」設定にします。	
4	吸い込み温度表示	あり	なし	吸い込み温度を表示させたくない場合「なし」設定にします。	

#### 7. 壁などに直接リモコンを据付ける場合の配線穴 (露出配線の場合)

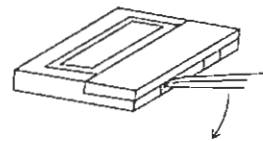
- ・カバーの内側薄肉部 (斜線部) をナイフ・ニッパーなどで切り取ってください。
- ・端子台に接続したリモコンコードをこの部分から出します。



#### 8. 本体にカバーをはめ込みます。



カバーを外す場合は右図のようにマイナスドライバーを爪部にはめ込み矢印で示す方向に動かします



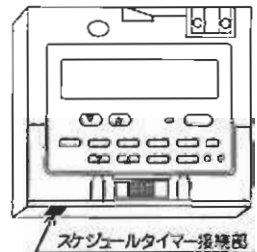
上部爪 (2ヶ所) を先に掛けて、上図のように本体にはめ込みます。

- △注意** 「パチッ」と音がするまで確実にはめ込んでください。確実にハマっていない場合、落下の恐れがあります。
- △注意** ドライバーを爪にはめ込んだ状態で回転させないでください。爪がこわれてしまうことがあります。

**お願い** 操作部には保護シートが貼ってあります。ご使用の際は、保護シートをはがしてください。

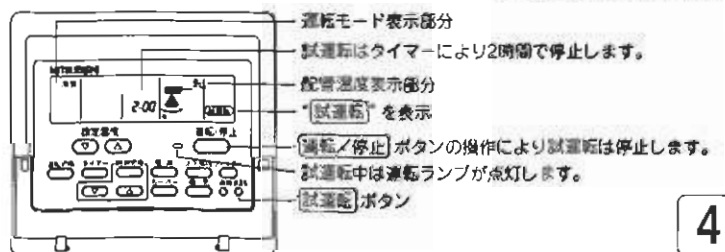
### 5 別売部品の接続

- ・スケジュールタイマーを接続する場合、本体のコネクタに5芯ケーブルを接続してください。(5芯ケーブルはスケジュールタイマーに付属されています。)
  - ・ケーブルを通すため、カバー内側薄肉部を切り取ってください。
  - ・配線経路の都合上、スケジュールタイマーはリモコンの左側に据付けます。このためスケジュールタイマーを増設する予定がある場合、リモコンスペースを考慮して設置してください。
- なお詳しい据付方法についてはスケジュールタイマーの据付説明書をご覧ください。



### 6 試運転

1. 試運転を行なう前に必ず室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。
2. 「試運転」ボタンを3秒以内に2回押すと、試運転が行なえます。
3. 「運転/停止」ボタンの操作により試運転は停止します。
4. 試運転によって異常が発生した場合については室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目をご覧ください。



## 7 換気設定

フリープラン機種でロスナイとの連動運転を行う設定が必要な場合のみ設定してください。

(スリムエアコンでは、設定できません。)

リモコンが接続されている室内ユニットのロスナイ登録、登録した内容の検索、登録抹消設定を行う場合この操作を行います。ここでは、室内ユニットアドレス05、ロスナイアドレス30の場合を例に説明します。

【操作手順】

- ①リモコンの**運転/停止**ボタンで空調機を停止の状態にします。  
このとき、以下の停止表示でなければ、②の操作ができません。

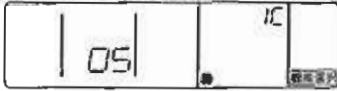


- ②**フィルター**と**ルーバー**ボタンを同時に2秒押ししますと下図の表示になり、現在リモコンが接続されている室内機が登録しているロスナイの検索を行います。



③登録検索結果

- ・室内機のアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示します。



室内機アドレスと室内機表示

ロスナイアドレス表示とロスナイ表示

- ・ロスナイが登録設定されていない場合



- ④ここで、何も設定する必要がなければ、**フィルター**と**ルーバー**ボタンを同時に2秒押しし、終了します。

新たにロスナイを登録する必要がある場合は、1. **登録操作**へ

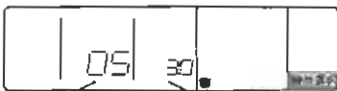
ロスナイの検索をしたい場合は、2. **検索操作**へ

いまの登録されているロスナイを抹消する場合は、3. **抹消操作**へ

1. **登録操作**

- ⑤ロスナイと登録設定したいリモコンが接続されている室内機のアドレスを設定温度 $\square$ 、 $\square$ を操作し、設定します。(01~50)

- ⑥登録設定したいロスナイのアドレスを時刻切換 $\square$ 、 $\square$ ボタンを操作し設定します。(01~50)

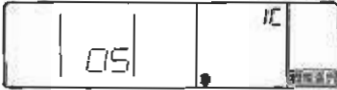


室内機アドレス、ロスナイアドレス

- ⑦**運転**ボタンを押し、設定した室内機アドレスとロスナイアドレスの登録を行います。

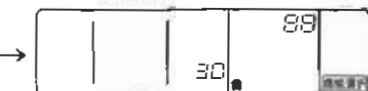
登録の完了表示

室内機のアドレスと「IC」、登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。



登録エラー表示

登録がうまく行かなかったとき室内機のアドレスと登録設定されたロスナイのアドレスを交互表示



登録設定した室内機またはロスナイが存在しないので登録ができません。

登録設定した室内機に別のロスナイが登録済みなので登録ができません。

2. **検索操作**

- ⑧ロスナイの検索をしたいリモコンが接続されている室内機のアドレスを設定温度 $\square$ 、 $\square$ ボタンを操作し、設定します。(01~50まで)



室内機アドレス

- ⑨**タイマー**ボタンを押し設定した室内機アドレスに登録されたロスナイアドレスの検索を行います。

検索の完了表示 (ロスナイ接続有りのとき)

室内機のアドレスと「IC」登録設定されたロスナイのアドレスと「LC」を交互表示します。



検索の完了表示 (ロスナイ接続なしのとき)



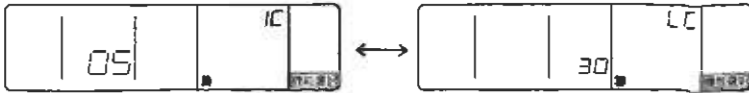
指定した室内機のアドレスが存在しません。



### 3. 抹消操作

リモコンが接続されている室内機とロスナイの登録設定を抹消する場合に使用します。

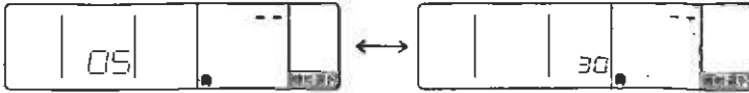
①抹消させたいロスナイの検索(2. 検索操作参照)を行い、室内機とロスナイの検索結果表示状態にします。



②時刻切換ボタンを2度押し、設定した室内機アドレスに登録されたロスナイアドレスの登録の削除を行います。

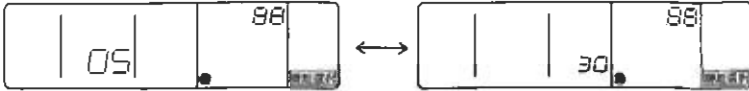
抹消の完了表示

室内機のアドレスと「--」、登録設定されたロスナイのアドレスと「--」を交互表示します。



抹消エラー表示

抹消がうまく行かなかったとき



## 8 機能選択

スリムエアコンで変更が必要な場合のみ設定してください。

(フリープランでは、設定できません。)

リモコンより必要に応じて各室内ユニットの機能を設定します。各室内ユニットの機能選択はリモコンからのみ設定可能です。

表1より機能選択が必要な項目を選択してください。

表1. 機能選択内容 (各室内ユニットの出荷設定内容、モードについての詳細は室内ユニットの据付工事説明書をご覧ください。)

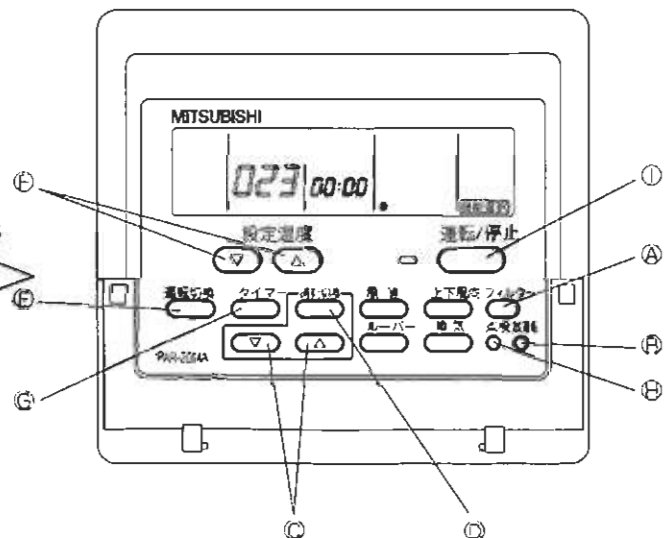
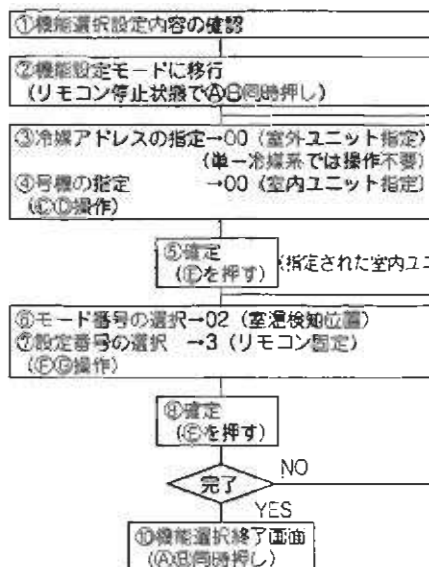
モード	設定内容	モード番号	設定番号	チェック欄	対象号機
停電自動復帰	無し	01	1		00号機
	有り(電源回復後、約4分待機が必要です。)	01	2		
室温検知位置	同時運転室内ユニット平均	02	1		全室内ユニットに対し 設定を行なう項目です。
	リモコン接続室内ユニット固定	02	2		
	リモコン内蔵センサ	02	3		
ロスナイ接続	接続無し	03	1		
	接続有り(室内ユニット外気取入無し)	03	2		
	接続有り(室内ユニット外気取入有り)	03	3		
自動運転モード	省エネサイクル自動有効	05	1		
	省エネサイクル自動無効	05	2		
フィルターサイン	100時間	07	1		01~04号機 又はAL
	2500時間	07	2		
	フィルターサイン表示無し	07	3		
風量	静音	08	1		
	標準	08	2		
	高天井	08	3		
吹出し口数	4方向	09	1		
	3方向	09	2		
オプション組込み	無し	10	1		各室内ユニットに対し 設定を行なう項目です。
	有り	10	2		
上下ベーン設定	ベーン無し	11	1		
	ベーン有り第1設定	11	2		
	ベーン有り第2設定	11	3		
省エネ暖気流	無効	12	1		
	有効	12	2		
加湿器組込み	無し	13	1		
	有り	13	2		

お願い 工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全設定内容を表1のチェック欄に○印などで記入してください。

#### 機能選択の流れ

まずは機能選択の流れをつかんでください。ここでは表1の“室温検知位置”の設定を例に説明します。

(実際の操作については【操作手順】①~⑩をご覧ください)



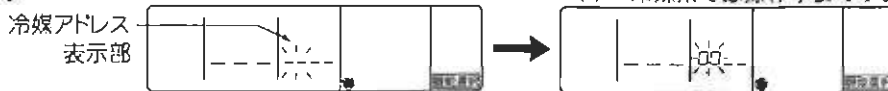


【操作手順】変更が必要な場合のみ設定してください。

①機能選択の各モードの設定内容を確認してください。機能選択にて各モードの設定内容を変更した場合、そのモードの機能が変わります。  
②～⑦に従い現在の全設定内容を確認し、表1のチェック欄に記入の上、設定を変更してください。なお、工場出荷時の設定については室内ユニットの据付工事説明書をご覧ください。

②リモコンを停止にします。

①フィルターと③送風ボタンを同時に2秒以上押します。  
機能選択が点滅し、しばらくするとリモコンの表示が下図の表示になります。



③室外ユニットの冷媒アドレスNo.を合わせます。

②(時刻切換)ボタンを押すと冷媒アドレスNo.が00～15の間で前後するので機能選択したい冷媒アドレスに合わせます。(単一冷媒系では操作不要です。)

※機能選択および室温表示部に「88」を2秒間点滅後、停止状態となる場合は、送信異常が考えられます。伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

お願い 途中で操作を間違えた場合は、一度②にて機能選択を終了し、再度②より操作を行ってください。

④室内ユニットの号機を合わせます。

③時刻切換ボタンを押し、号機表示部「--」を点滅させます。

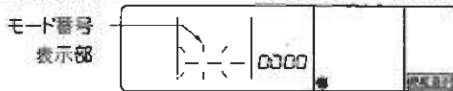
④(時刻切換)ボタンを押すと号機が00→01→02→03→04→ALと変化するので機能選択したい室内ユニットの号機に合わせます。



※モード1～3を設定する場合は、「00」に合わせてください。  
※モード7～11を設定する場合は、  
・各室内ユニットごとに行なう場合は、「01～04」に合わせてください。  
・全室内ユニット一括に行なう場合は、「AL」に合わせてください。

⑤冷媒アドレス、号機の確定

③運転切換ボタンを押し、冷媒アドレス、号機を確定します。  
しばらくするとモード番号表示部「--」が点滅します。



※室温表示部に「88」が点滅表示する場合、選択した冷媒アドレスがシステム内にありません。  
また、号機表示部が「F」となり、冷媒アドレス表示部とともに点滅表示となる場合は、選択した号機が存在しません。②、③にて冷媒アドレス、号機を正しく設定してください。

④(運転切換)ボタンにて確定操作をすることにより、確定された室内ユニットが送風運転を開始します。機能選択する号機の室内ユニットがどこにあるのかわからない場合はこれにより確認してください。なお、号機が00、ALの場合は選択した冷媒アドレスの全室内ユニットが送風運転します。

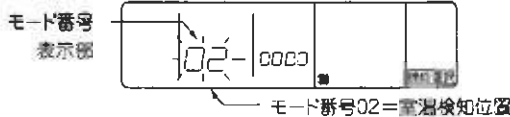
例) 冷媒アドレス00、号機=02確定時の場合



※異冷媒系統でグルーピング時、指定した冷媒アドレス以外の室内ユニットが送風運転する場合、ここで設定した冷媒アドレスの重複が考えられます。再度、室外ユニットのディップスイッチにて冷媒アドレスの確認をしてください。

⑥モード番号の選択

④(設定温度)ボタンにより設定したいモード番号を設定します。(設定可能なモード番号のみ選択できます。)



⑦選択したモードの設定内容を選択します。

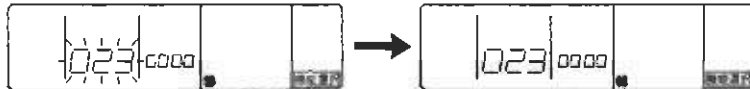
⑤タイムズ/連続ボタンを押すと、現在設定されている設定番号が点滅します。これにより現在の設定内容を確認してください。

④(設定温度)により設定番号を選択します。



⑧③～⑦の設定内容を確認させる。

⑥運転切換ボタンを押すと、モード番号と設定番号が点滅し登録を開始します。モード番号、設定番号の点滅が点灯に変わり、設定が完了します。



※モード番号および設定番号が「---」となり室温表示部に「88」が点滅表示となる場合は、通信異常が考えられます。伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

⑨更に、他の機能選択を行う場合は、③～⑧の作業を繰り返して行ってください。

⑩機能選択を終了します。

①フィルターと③送風ボタンを同時に2秒以上押します。  
しばらくすると機能選択画面が解除され、空調機停止画面へ復帰します。



※機能選択終了後、30秒間はリモコンより操作しないでください。

お願い 工事完了後、機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全設定内容を表1のチェック欄に○印などで記入してください。

## 9 自己診断

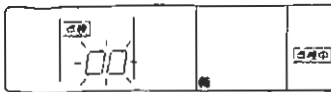
リモコンにて各ユニットの異常履歴を検索します。

- ①自己診断モードに切替えます。
- ②点検ボタンを3秒以内に2回押すと、下図の表示になります。



自己診断対象アドレスまたは、  
自己診断対象冷媒アドレス

- ②自己診断したいアドレスまたは、冷媒アドレスNo.を合わせます。
- ③▽△(設定温度) ボタンを押すと01~50または、00~15の間で前後するので自己診断したい自己診断対象アドレスNo.または、冷媒アドレスNo.に合わせます。

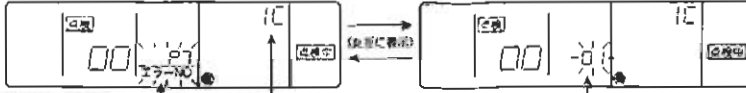


変更操作してから約3秒後、自己診断冷媒アドレスが点灯から点滅に変わり診断処理を開始します。

### ③診断結果表示

〈異常履歴がある場合〉

(異常コードの内容は室内ユニットの掘付工事説明書またはサービスハンドブックをご覧ください)



異常コード4ケタまたは、異常コード2ケタ

〈異常履歴がない場合〉

異常検出もとの属性

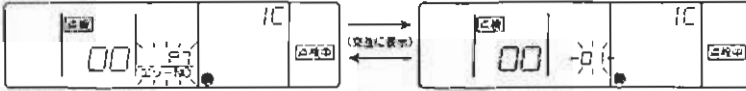
〈相手が存在しない場合〉

アドレス4ケタまたは、号機2ケタ



### ④異常履歴リセット操作

- ③の診断結果表示画面にて異常履歴を表示させます。



- ④時刻切替ボタンを連続で3秒以内に2度押しすると自己診断対象アドレスまたは、冷媒アドレスが点滅します。

異常履歴がリセットされた場合、下図の表示になります。  
なお、異常履歴リセットに失敗した場合は異常内容が再度表示されます。



### ⑤自己診断の解除

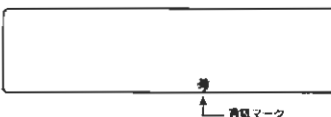
自己診断の解除には次の2通りの方法があります。

- ①点検ボタンを3秒以内に2度押し → 自己診断を解除し、自己診断前の状態になります。
- ①運転/停止ボタンを押す → 自己診断を解除し、室内ユニットが停止となります。  
(操作禁止状態時、この操作は無効です。)

## 10 リモコン診断

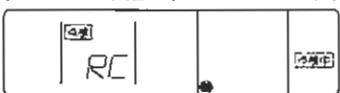
リモコンからの操作がきかない場合、本機能により、リモコン診断を行なってください。

- ①まずは通電マークを確認してください。  
リモコンに正常な電圧 (DC12V) が印加されてない場合、通電マークは消灯しています。  
通電マークが消えている場合は、リモコン配線、室内ユニットを点検してください。



### ②リモコン診断モードに移行

- ②点検ボタンを5秒以上押し続けると、下図の表示になります。

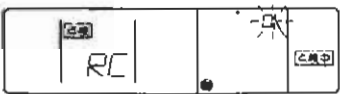


- ③フィルターボタンを押すと、リモコンの診断を開始します。



### ③リモコン診断結果

#### リモコン正常時



リモコンに問題はありませので他の原因を調査してください。

#### リモコン不良時

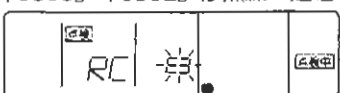
(異常表示1) 「NG」が点滅→リモコン送受信回路不良



リモコンの交換が必要です。

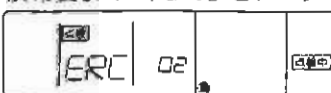
#### リモコン診断したリモコン以外に問題が考えられる場合

(異常表示2) 「E3」「6833」「6832」が点滅→送信不可



伝送線にノイズがのっている、あるいは室内ユニット、他のリモコンの故障が考えられます。伝送路、他のコントローラを調査してください。

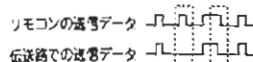
(異常表示3) 「ERC」とデータエラー数を表示→データエラーの発生



データエラー発生数  
(最大66個)

データエラー発生数とはリモコンの送信データのビット数と実際に伝送路に送信されたビット数の差を意味します。この場合、ノイズなどの影響で送信データが乱れています。伝送路を調査してください。

#### ④「データエラー発生数」が?の場合



### ④リモコン診断の解除

- ④点検ボタンを5秒以上押し続けると、リモコン診断を解除し、「HO」、運転ランプが点滅し、約30秒後、リモコン診断前の状態に戻ります。



三菱電機株式会社

冷暖システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66 ☎(073)436-2111(大代表)